

		項目	
<p>第四次中長期経営計画の重点目標</p> <p>第四次計画の中で本院が特に重点的に取り組むべき医療を以下のとおり定め、これを念頭に基本戦略を立案する。</p> <p>1 災害医療機能の充実 赤十字の使命である災害医療に備える。また、病院の業務継続計画の策定を促進する。</p> <p>2 地域医療連携の強化 医療と介護の連携から地域内連携強化をはかり、地域における多職種協働と、切れ目のない医療介護サービスを提供する。</p> <p>3 救急医療体制の基盤整備・強化 引き続き急性期病院として二次救急輪番病院を維持し、断らない医療体制をつくる。 安心・信頼して必要な医療を提供できる体制を整備する。</p> <p>4 高度医療の提供によるがん診療、血管内治療の充実 がん診療の充実をはかり、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療などの集学的治療体制を構築する。救急医療の強化の一つとして、血管内治療(心・脳)の充実を図る。</p> <p>5 BSC推進による目標達成 各部署でBSCを作成し、戦略を可視化する。 中長期経営計画、予算作成への導入</p> <p>6 働き方改革 適切なタスクシフト(業務移管)を進め働き続けられる職場環境を整備する</p>	<p>基本戦略</p> <p>1 理念の継承・見直し (1) 理念の職員への浸透 当院の存在意義や理念を再確認し周知をはかる (2) 理念の見直し 内外環境の変化に伴う理念の見直しを行う</p> <p>2 質の高い医療の提供 (1) 医療に関する安全性の充実・推進 ①医療安全対策の充実 院内研修の定期実施(教育、啓発) 5S活動、チームステップス教育 安全管理マニュアルの評価、修正と職員への周知徹底 医療事故防止対策(予防) ②院内感染対策の充実 院内研修の定期実施(教育、啓発) 感染防止マニュアルの評価、修正 周知徹底 感染防止対策(予防) 新型コロナウイルスの対応(教育・周知) ③チーム医療の充実 多職種連携の強化</p> <p>(4) オンラインを活用した医療サービス提供 オンライン面会の充実 職員の研修会開催と実施 SNSなどを通じた個人情報の漏洩などに対するネットワークセキュリティに関する整備・教育 オンライン会議体制整備の検討</p> <p>(2) 患者支援センターの充実 ①地域医療連携の強化・推進(予約減に対する対策) ②ベッドコントロールの円滑化 ③入院支援・療養支援(PFM業務)の強化 ④開業医へとアピールしたい領域の情報提供</p> <p>(3) 救急医療の強化 ①二次救急体制の維持 救急体制の効率化・高度化の検討 ②断らない医療体制の構築 救急体制の効率化・高度化の検討 ③救急専門医の招致・育成 ④日本救急医学会の専門医認定施設の認定取得 ⑤救急医療従事者養成のための教育・研修体制の充実 ⑥診断までのスムーズな体制構築 ⑦検査体制の見直し、効率化</p>	<p>(4) 地域包括ケアに対応できる人材の育成と活用 ①認知症看護実践能力の向上 ②入退院支援・訪問看護の充実 ③特定行為に係る看護師の育成</p> <p>(5) 災害・救護医療の充実 ①災害拠点病院としての体制構築 ②大規模災害対策マニュアルの随時見直し ③災害時事業継続マニュアル(BCP)の整備 随時見直し BCPに基づく訓練の実施 ④受援マニュアルの整備 ⑤大規模災害に対する救護訓練の実施 ⑥DMATの充実 ⑦日赤救護班の充実 ⑧大規模災害に対応した院内インフラの改善 現段階での災害対応状況の検証・調査</p> <p>(6) がん診療・血管内治療の充実 ①地域がん診療連携拠点病院認定の取得 ②手術、化学療法、放射線治療、緩和医療などの集学的治療体制の構築 ③外来化学療法室症例数の増加 ④放射線治療患者数の増加、放射線治療専門医の確保 ⑤HPを利用した当院のがん治療情報の公開 ⑥広角的な視点での患者への追加がん検査実施 ⑦脳血管内治療の充実 脳血管センターの活用</p> <p>(7) 生活習慣病対策の推進 ①糖尿病への対策 特定健診、特定保健指導の普及、啓発 ②健診部門の充実 人間ドック健診施設機能評価認定施設の維持 人間ドック認定医の育成 人間ドックアドバイザー資格の取得 特定健診、特定保健指導体制の充実 健診項目の見直し、追加 生活習慣改善の普及啓発 がんの正しい知識、予防方法の普及啓発 健診後の安心でわかりやすい診療ルートの説明</p> <p>(8) その他の医療 ①専門外来の充実 ②総合診療科の設置 ③臓器提供体制の充実 ④難病医療の対策</p>	
	<p>3 健全経営体質の確立 (1) 収入の確保 ①診療報酬請求の適正化(適正なDPCコーディング) ②DPC医療機関別係数の維持、増加 ③急性期一般入院料算定の継続 重症度、医療・看護必要度の維持(Ⅱ:28%以上) ④急性期充実体制加算取得への体制整備 ⑤請求漏れ、査定減の防止 (レセプト点検の精度向上) ⑥病床利用率の向上 新入院・予定入院の増加 平均在院日数の短縮、退院調整の円滑化 入院期間Ⅱ超え退院の改善 ⑦未収金の発生防止と早期回収 ⑧高度医療機器の稼働率向上 ⑨DPCデータ分析・経営戦略の基礎資料作成</p> <p>(2) 収支改善のための支出統制 ①購買業務の強化 在庫管理の徹底 後発品医薬品の使用促進 赤十字グループメリットの活用による費用削減計画(購買情報、研修) ②省エネルギー対策 ③DHC更新への対応検討 後発品医薬品の使用促進 赤十字グループメリットの活用による費用削減計画(購買情報、研修)</p> <p>(3) 人材確保と育成 ①医療従事者の安定確保(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師臨床工学士など) ②質の高い医療従事者の育成 専門医、専門・認定看護師の育成、病院の強みとなる医師の招聘 健康生活支援・幼児安全法指導員の育成と派遣 ③キャリア開発ラダーの活用による職員の育成</p> <p>(4) 働きやすい職場環境の整備 働き方改革に伴う業務改善を図る(ワークライフバランス推進) 医師クラークの活用による医師業務の負担軽減 中央処置室での臨床検査技師の採血導入に向けての環境整備 放射線技師との協働体制整備の検討 造影検査の抜針・ルート確保 ⑤医療従事者の負担軽減の促進 ⑥新専門医制度への対応 ⑦院内研修制度の構築、独自の院内資格制の導入 ⑧自己啓発事業助成制度の活用 制度の周知、効果の検証 ⑨職員の接遇スキルの充実 ⑩新たな勤務評定制度の導入</p> <p>(5) 患者サービスの向上 ①職員のホスピタリティの醸成 ②患者満足度調査の継続 ③待ち時間の改善 更なる逆紹介の推進 ④アメニティの充実 ⑤ホームページの充実 ⑥病院パンフレット、院外報の充実(やすらぎ、えん、かがやき) ⑦患者からの投書、職員意見聴取 ⑧公開講座等新たな情報提供手段の構築 ⑨報道機関への積極的な記事投稿 ⑩患者が安心して来院できる感染対策 ⑪外来中待合の案内表示の設置の検討 待ち時間の際の場所確保</p> <p>(6) 電子カルテの改善と更新 ①システムの改善、容易なマスタ管理 ②医師と他職種との適切な役割分担 ③電子カルテ更新(2023年3月)</p> <p>(7) 看護専門学校閉校後の対応 ①看護師確保対策の強化 ②施設の有効活用への取り組み</p>		